

経済・金融フラッシュ

No.08-020 2008/5/7

米4月ISM指数は、非製造業指数が 52.0 に回復

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail:doihara@nli-research.co.jp

1、製造業指数の低迷の半面、非製造業指数が好転、50 を上回る

企業のセンチメントを示すISM（米供給管理協会）指数は、4月製造業指数（PMI）が48.6と3月と同値となり、市場予想（48.0）を若干上回った。しかし、製造業の拡大・縮小の分かれ目とされる50は、3ヵ月連続で下回った。

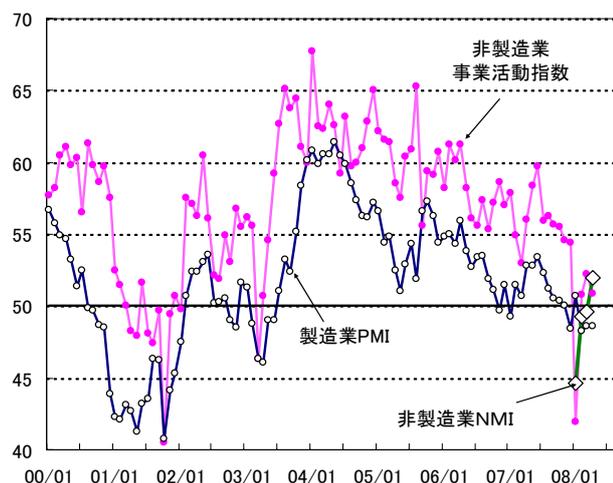
一方、4月の非製造業指数（NMI、注：1月から総合指数として新設）は52.0と3月（49.6）から上昇、市場予想（49.1）も上回り50台に乗せた。また、これまで非製造業の景況感を示す指数として注目されていた事業活動指数は50.9と3月52.2から低下したが、3ヵ月連続で50を上回った。事業活動指数は、1月に41.9とテロ事件直後の2001年10月（40.5）以来7年3ヵ月ぶりの低水準となったが、2月以降は50台の水準を回復し、事業活動について「低下した」との回答比率は、1月の42%から4月は18%へと急減少している。

このように、1月より総合指数として新設されたNMIは、1月以降3ヵ月連続で非製造業の拡大・縮小の分かれ目とされる50を下回っていたが、今回初めて50台に乗せたため、非製造業の業況感が好転していることを印象づけた形である。

住宅不況やサブプライム問題の拡大による信用不安に加え、エネルギーコストが上昇するなど、企業環境が悪化しており、製造業PMIは引き続き低迷しているものの、非製造業NMIは市場予想に反して50を上回ってきたことで、

景気の悪化がそれほど深くはないとの観測を呼ぶ結果となっている。

（図表1） ISM指数の推移（月別）



（資料） Institute for Supply Management、以下も同じ。

なお、ISMでは5月6日に半年に一度の企業の購買担当者を対象とした業況見通し調査を発表したが、それによると、製造業では、2008年の売上高が前年比で1%増と12月調査（同6.8%増）から急低下、設備投資は同1%増（12月調査：同0.7%増）、設備稼働率は78.6%（12月調査：同82.9%）となった。

非製造業では、2008年の売上高が前年比で2.7%増と12月調査（同2.0%増）から上昇、設備投資は同2.7%減と12月調査（同6.3%減）から改善、設備稼働率は85.9%（12月調査：同86.4%）となった。概して、製造業では弱気の見方が急増する形となったが、非製造業では強気の見方が増加気味となるなど、対照的な結果となっている。

（各指数の内訳）

2、製造業各指数は全般的に停滞が続く中、価格指数が突出、輸出も堅調推移

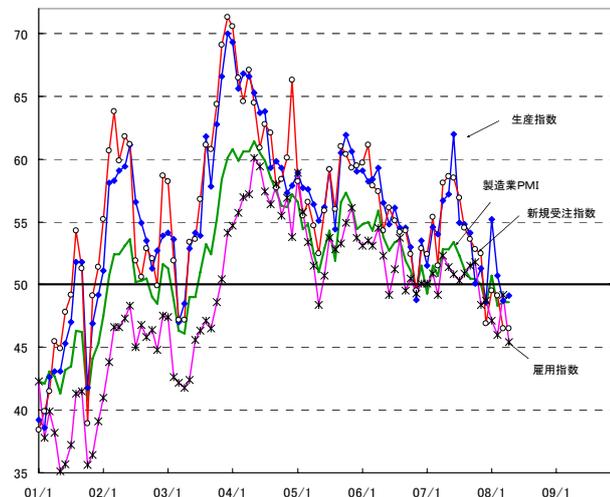
ISM製造業指数のうち、指数別に4月の動きで上昇が目立ったのは、受注残（前月47.5→51.5）、在庫指数（前月44.9→48.1）で、半面、下落が大きかったのは顧客在庫（前月51.0→45.0）、雇用指数（前月49.2→45.4）となろう。雇用指数は製造業の雇用増減の境目となる49.5から下方への乖離が拡大しており、製造業に於ける雇用減が懸念される。

また、水準としては、価格指数の突出（前月83.5→84.5）が目立ち、2004年5月（86.0）以来の高水準と

なった。原油・商品価格高騰等を背景にしたものと思われ、71%の回答が仕入れ価格の上昇を指摘していた。この他、主要指数では、生産指数（前月48.7→49.1）が若干上昇したが、新規受注指数は46.5と前月と同値だった。また、輸出指数（前月56.5→57.5）が回復し、輸入指数（前月45.0→48.0）とも持ち直しの動きとなった。ただし、製造業の輸出指数はその水準でも輸入指数を大きく上回っており、純輸出はなお改善方向にあると見られる。

以上のように、製造業では、受注や生産が50を割り込み、総合指数（PMI）も3ヵ月連続で50を下回った。価格指数の上昇も、エネルギー価格上昇が仕入れ価格全般への影響を強めていることを示唆しており、懸念材料と言えよう。また、雇用指数が比較的大きな下落となった半面、在庫指数が上昇したのも懸念される。なお、3月同様、調査10項目中、6項目で50割れとなっており、製造業における事業活動はなお停滞感の濃い状況が続いていると言えよう。

（図表2）ISM製造業指数の内訳と推移（月別）



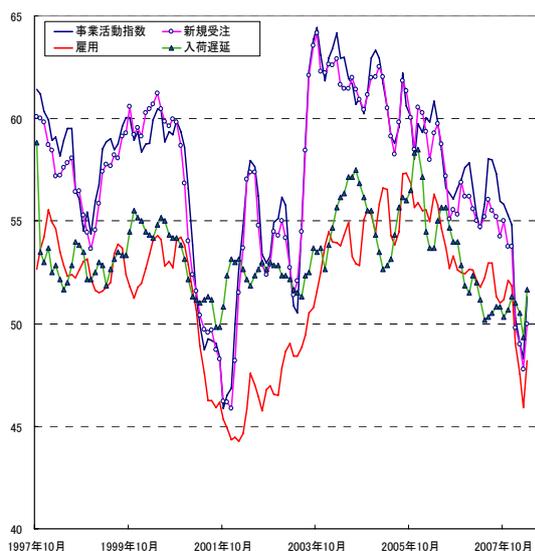
(図表3) ISM指数製造業と非製造業指数の一覧

	製造業指数						非製造業指数					
	4月	3月	2月	1月	12月	3→4月 変化幅	4月	3月	2月	1月	12月	3→4月 変化幅
PMI/NMI	48.6	48.6	48.3	50.7	48.4	0.0	52.0	49.6	49.3	44.6	N/A	2.4
生産/事業活動	49.1	48.7	50.7	55.2	48.6	0.4	50.9	52.2	50.8	41.9	54.4	▲ 1.3
新規受注	46.5	46.5	49.1	49.5	46.9	0.0	50.1	50.2	49.6	43.5	53.9	▲ 0.1
雇用	45.4	49.2	46.0	47.1	48.7	▲ 3.8	50.8	46.9	46.9	43.9	51.8	3.9
入荷遅延	54.0	53.6	50.1	52.8	52.6	0.4	56.0	49.0	50	49	52.5	7.0
在庫	48.1	44.9	45.4	49.1	45.4	3.2	47.0	51.5	50	44.5	50.5	▲ 4.5
価格	84.5	83.5	75.5	76	68	1.0	72.1	70.8	67.9	70.7	71.5	1.3
受注残高	51.5	47.5	45.0	44	43	4.0	50.0	47.5	49.5	46	49	2.5
新規輸出受注	57.5	56.5	56.0	58.5	52.5	1.0	48.5	55.0	46.5	52	50	▲ 6.5
輸入	48.0	45.0	47.5	52.5	48	3.0	50.0	54.5	49	41.5	50.5	▲ 4.5
在庫センチメント	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	63.0	60.5	60.5	57	64.5	2.5
顧客在庫	45.0	51.0	49.0	49.5	51.5	▲ 6.0	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

3、非製造業の指数別では、入荷遅延・雇用指数の上昇が大

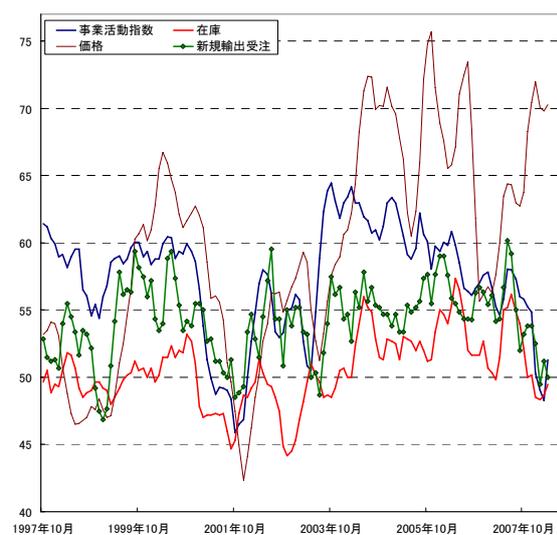
非製造業では、NMI が 50 台への上昇を見せたものの、各指数は全般まちまちの動きとなった。中でも、入荷遅延は 56.0（前月 49.0）と上昇が大きく、雇用指数も 50.8（前月 46.9）とこれに続く。半面、指数が下落したのは、新規輸出受注 48.5(前月 55.0)、輸入指数 50.0（前月 54.5）、在庫 47.0（前月 51.5）等だった。

(図表4) ISM非製造業指数の内訳(1)



注：3 ヶ月移動平均

(図表5) ISM非製造業指数の内訳(2)



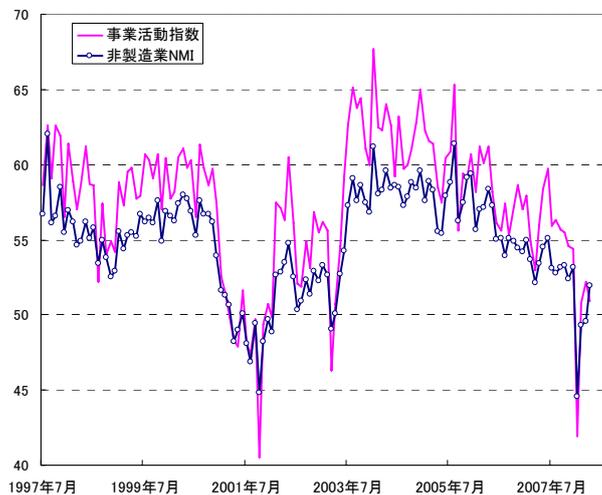
注：3 ヶ月移動平均

特に最近の動向が注目される雇用に関しては、指数が 50 を超えたのは昨年 12 月以来のことであり、内訳でも雇用増を回答した 8 業種に対し、減少を回答したのは 5 業種に留まった。増加業種には、鉱業、農林水産業、リクレーション、人材派遣業等があり、減少業種には、運輸・倉庫、金融・保険、ヘルスケア等が含まれる。また、サービス業でもエネルギー価格上昇等の影響は大きく、価格上昇回答が過半（3月 53%→4月 60%）に増加し、また、すべての業種（18 業種）で仕入れ価格上昇が報告された。

《参考》

本年 1 月分より、非製造業指数においても総合指数(NMI : Non-Manufacturing Index)が発表されている。NMI は、これまで発表されていた事業活動、新規受注、雇用、入荷遅延の各指数を 25%ずつ均等なウェイトで構成したもので、4 月は 52.0 と初めて 50 台に乗せ、また、事業活動指数を上回った。過去の同指数は発表されていないため、試算ベースでの過去の歴史を見ると、概ね事業活動指数をやや下回って推移し、変動幅も事業活動指数より狭い傾向にある。なお、1 月には 44.6（12 月推定値 53.2）と急落したが、これまでの最低値とみられる 2001 年 10 月の試算値 44.8 を下回り、97 年の非製造業指数開始以来の最低値だったと見られる。

(図表 6) ISM非製造業 NMI の推移(月別)



注：非製造業 NMI の過去の数値は当研究所試算値。

(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)